

# 絵画の具体的指導目標の 設定について

富田 陽子

「子供の絵をどう見たらよいのかしら」「どのように指導したらよいのかしら」

就任第一歩、壁一面に貼られてある子供達の絵を見ながら、私は迷い、いろいろと考えました。兎に角子供をすることだ、私は勇気を出して子供達の中に飛び込んでいきました。幾冊となく本も読み、いろいろと人の話を聞きましたが、実際、子供達から教えられた数々の事柄は、常に新らたな感激と勇気と反省を与えてくれました。いつも子供達に教えられながら、子供の絵を理解することに努め、子供達と共にひたすら絵をかくことを楽しんで来た一年間でした。

今年は昨年の体験の上に、更に一步々々綿密な計画の下に進んでいきたいと、子供達の実態調査に基いて、私の組の具体的指導目標を設定して指導を進めて参りました。未だ経験も浅く、資料にも乏しく、甚だ拙いものではあります、此處に纏めて発表させて頂きます。

## I 絵画の一般的指導目標

### (1) 絵画の目標

普通、子供は満一年と六ヶ月頃から絵を描き始めると云われています。新聞紙の間には

さまれて来る広告の裏に、或は兄さん姉さん達のノートに、又時には壁や襖にまで描きなぐる絵。この「みゝずののたり」や「ぐるぐるがき」のように、最初は単なる身体運動的なものにすぎなかつたものが、それらの中には何かの対象を見出し、「お山」とか「お菓子」とかの説明がつけられるようになり、やがて「描くもの」を意識してそれを表現するようになります。その時期については、子供達を取り巻く様々な環境や発育の違いによって個々の差はありますが、このような発達段階を経て入園して来る子供達の絵を幼稚園教育においては、どのように取り上げたらよいでしょうか。

学校教育法第七章第七十八条の第五項には「音楽・遊戯・絵画・その他の方法により創作物的表現に対する興味を養うことと示されている。更に「保育要領」においては、保育内容の第七「絵画」の冒頭に「絵を描くことに興味を持たせ、よく描けたかどうか」という結果よりも、楽しみながら描くことの喜びを味わわせることが大切である。のびのびとした気持で自由な表現をさせ、表現することの喜びを十分に味わせ創作的表現に対する、興

味を養う。」と述べてゐる。

Homer Lane ホーマー・レインは “Talks to Parents and Teachers,”(親と教師に語る)の中、「人間の精神はその発展の最初から——即ち生れるとすぐ——1つの異つた要求をもつてゐる。それは所有することと創造すること。もつてることと実験すること。また経験した快樂を繰返すこと、新しいことをなしとげる興味の為に新しい」とをすること。の二種類である」と述べています。

又、フランス・チゼックは「画家を養成することではなく、児童の創造力を発達させる」とであり、そしてひとたび創造力がめざめれば人生におけるすべての前途がこの創造力によつて影響されるのである」ともいつております。

その指導目標についてでは、「一般的には現在のところ未だないようです。強いて求めるならば「指導要録」の絵画製作の項に示され、

更に「指導要録の解説」の中で説明されています。

しかし、これは「評価規準」であつて「指導目標」ではありません。けれども、評価はその目標に対するものでありますから、逆にこれを目標とみなして取扱つてみるとしましよう。今此處にそれをあげてみますと

1、喜んで絵を描いたり物を作つたりする

2、絵を描いたり物を作つたりして自分の

氣持を表現する。

3、形や色や模様に関心をもつ。

4、身近かな造形品に関心をもつ。

の諸目標となります。しかし、この四つの指

導目標の表現は非常に抽象的で、これを實際

保育にそのまま取り上げるには種々の困難が

あります。そこで、これらの指導目標を日常

の保育に役立つよう、更に具体化する必要があ

ると思われます。(小学校においても、絵画

と工作は図画工作科として一科目になつてお

りますし、幼児指導要録にも絵画製作となつておりますが、今回は特に絵画についての具

体的指導目標の設定について述べたいと思ひ

ますので、一寸の点をおとことわりして置き

ます)

## II 具体的指導目標

### (1) 設定の方法

それでは、どのようにして設定したらよいでしょうか。私は、これを発達段階と小学校教育との関聯の二つの立場から更に具体化する」としました。

#### (A) 発達段階

発達の段階については人により色々の分け方をしてくるようですが、前に述べたホーマ

ー・レインの分類によれば、誕生より十七才迄の子供を心理的にわけて、

誕生～二・三才——幼児時代  
三才～七才——空想の時代

七才～十才——自己主張の時代  
十才～十七才——協同の時代

の四段階としています。

更に絵画表現の発達については、

一才～二才 錯画前期

二才～三才 錯画後期

三才～四才 図式表現前期

四才～五才 図式表現後期

（自己）中心表現

（自己）表現前期

構成的表現期

写実的表現期

五才～六才

六才～七才 写実的表現期

に分類されます。

以上の分類からみますと、幼稚園における発達段階の位置は、心理的には空想の時代であり、絵画表現においては図式表現前期から構成的表現期の間にあります。この時代における発達の特徴を次にあげてみますと、

### 1、図式的な表現である。

即ち、簡単な線描によつて、物の形を暗示的に説明的表現する。

例えば、短形に丸を沢山つけ、煙突をつけて汽車にしたり、丸の中に小さな丸を三つ描いてお母さんだと説明したりす

る。

描かれている一つ一つに意味があるのであつて、一画面にたとえば三つの物を描いても、子供はこの三つの関係とか統一とかいうことは考えていない。

例えば、人のわきに人程大きなチューリップを描いても不自然を感じないものこの為である。

3、実物の通り、見える通りに描かないで、実物からの印象に基づいて頭の中にまとめられている概念を投出して描いてい

る。例えば、この時期の子供が図式的表現をすることや、家を抽へ場合、戸や壁にさきぎられていて實際には外から見え

ない電燈を抽いたり、電車を抽くときには外からは見えない乗つている人の足まで抽いたりするような、所謂透明描写とかレンントゲン描法とか云われている表現をするのはこの例である。このような表現は未開人にもしばしば見られる。

4、子供独自の立場において、立体を平面化することや遠近感をつけることを工夫している。

例えば、机を囲んでいる子供達を描く場合に全部を瘦たよにかいたり、道路を描くのに遠い所も近い所も同じ幅にかい

ている。これは、子供は一つ一つの物を常に最も描きよい方面から描くだけであつて、移動視点法などとも呼ばれていい。この方法は、古来からの日本画絵巻物などに現れた大和絵の遠近法や古代エジプト人の絵に用いられている。

5、以上の諸点からみて、この時代の子供の表現は非常に主観的・自己中心的であるとか、空想的であるといわれている。

6、この時期の子供は身体発達の状況からみ

て全身運動が活潑であるから、余り細い仕事を長時間続けることが困難である。即ち、小さな紙に抽くよりも、大きな紙や黒板や或は大地に思う存分抽きたがる。しかし、次第に手先が器用になり発育が休まるので、五六才頃には次第に細い所まで抽くようになる。

7、この時期の子供は、かくことそれ自身に魅力をもち出来た結果については、まだそれ程関心を持たない。即ち、成就のいかんよりも表現活動そのものの喜びの方が大きい。

8、この時期の子供の表現は、知識にとらわれることなく、自分の思つていることを率直に表現する。そこに純一無難なものがあつて捨て難い味わいを生ずるのであるが、児童は必ずしもそれを自覚していない。

9、主観的・自己中心的であるこの時期の児童は、他の作品を批判的に見る力はまだ発達していないから、ほんとうの意味の鑑賞は困難であろう。しかしそうい作品を環境において、常にそれに親しませるこ

心せ、まことに難難な事なり。

云ふものなり。おもてはくにいへば、かう。

(四) 小学校教育に於ける図工科の課題

(第一表)

小学校第一学年の指導目標と指導内容

(小學習指導要領図工編)

指導目標	描画	色彩	素描	工芸作	鑑賞
1 男童の活動性と表現欲の満足から豊富な経験を積み、生活経験から自信とを持たせる。	1 いろいろな遊戯家庭での行事簡単な児童の生活選択から適宜のものを選び、児童のものはなるべく社連その他の学習と関連して当つては、物の大割合や物との関係がいわないのである。描法についてもびと教科は不透明水である。	1 主要な有彩色および無彩色の名を覚え、実際に色を扱うことによって、色彩に対する感覚を発達させる。	1 標準色によつて、あか、きいろ、きだいだい、どいだい、きどり、みどり、あおめらきき、もらききの有彩色11色と、しら、色3色の色名を覚える。着色の基本色を整理したり、美しくなして並べたりする。物の大きさについても選ぶことができる。	1 自由に色や線を使つて模倣あるいは実際の手近にあるものを美しくして、あかもらききの有彩色11色と、しら、色3色の色名を覚える。着色の基本色を整理したり、美しくなして並べたりする。物の大きさについても選ぶことができる。	1 紙・紙土・その他の身近に手近にあるものを用いて遊びの活動性と表現力を満足させ生活経験を豊富にする。
2 色と標準色の色とを比べて色の名を覚える。	2 標準色によつて、あか、きいろ、きだいだい、どいだい、きどり、みどり、あおめらきき、もらききの有彩色11色と、しら、色3色の色名を覚える。着色の基本色を整理したり、美しくなして並べたりする。物の大きさについても選ぶことができる。	2 標準色の色、絵や模様の色、色紙の色、色彩の色、色と標準色の色とを比べて色の名を覚える。	2 簡単な色紙入れの袋、手芸などと遊びの道具を作つたりする。遊びの割合や物との関係がいわないのである。描法についてもびと教科は不透明水である。	2 紙・紙土・その他の身近に手近にあるものを用いて遊びの活動性と表現力を満足させ生活経験を豊富にする。	2 紙を折る、折り紙を折る、ままごと遊びの道具を作つたりする。中厚紙で動物を立てる、中厚紙で動物を作つたりする。中厚紙で樹木、家の作り方などをかく。木の葉木の美その他の

ぐ、色紙・クレヨン、バス  
鉛筆などの他なるべく絵  
いどいろな材料を使う絵  
をさせせる。

る。色あいと色の名について  
ては、あまり厳密な要求  
をしないでよい、しかし  
みどりやあおみどりを、だ  
おといつたり、だいする  
ことは、あかといつたり、だいする  
ことは、たださなければ  
ならない。ちぎつたり、  
3色紙を切つたり、ちぎつ  
たりして色ならべをして、  
図案その他の学習との  
関連をとる。

をかけたり、壁に絵や図  
を配置に気をつけではつ  
たり、教室を装飾したり  
して、環境を美しくする  
ことに対する関心を高め  
る。

工物、自然物で遊びの道  
具を作る。

以上の構成方法は、児童  
らしい構成方法によれば  
よい。構成結果の正確さを要  
求するのはまだ早い。  
他の学習と関連をとる  
3. 素材でいろいろな物  
類。果物簡単な器物など  
の形を自由にのびのび  
と作る。当つては、大きさ  
の割合や形の正しさなど  
についての要求はまだし  
ながよい。

と考えられね。

小学校第一学年に於ては、図工科の指導目  
標並びに指導内容を次のように示しておきま  
す。(第一表参照)

## (2) 具体的指導目標

以上、発達段階と小学校教育図工科との関  
聯を見て來たのであります。これに基いて、  
幼稚園に於ける絵画の具体的指導目標を次  
のように設定できる「ありお」よ。

- 1、喜んで絵を描く。
- 2、○クレヨンや絵具を使い自由に喜んで描く

- 1、喜んで絵を描く。
- 2、○絵を抽いて、自由に自分の気持を表現で  
きるようにする。

- 1、○絵を抽いて、自分の気持を表現する  
ようにする。
- 2、○美しい形や色や模様のあるものを喜んで  
みる。

○自分の見たいいへん・思ひたいへん感  
じたりとを喜んで自由に絵に表現する。

○皿田にクレヨンや絵具を使つて、気持の  
よへに伸び伸びと描く。

○黒板や大きな紙に思ひ存分に描く。

○自分の見たこと、感じだりとを喜んで描  
く。

○クレヨン・鉛筆・墨・絵具・白墨など、  
の正しい使い方を知る。

○伸び道具を分け合つて使つ。

○グループで協力して楽しく描く。

○伸びた絵を部屋に貼る。

○、形や色や模様に興味をもつ。

○美しい形や色や模様のあるものを喜んで  
みる。

○自分のおもじらるるもの、作ったものなど、色彩を塗つたり、模様を描いたり、貼つたり離つたりする。

○自然物や身の周りの物を利用して模様を作り。

○無しの形や色の物を集めて喜ぶ。

○おもちゃの色の名を覚る。

○おもちゃの色彩感を感じする。

○漁網などのおもちゃの色を使って表現する。

○色の区別をして使ふる。

○紙袋のよし色の組合せや組合せをやるといふことを教す。

○E・三種・四角等の簡単な形がわかる。

○最近のおもちゃに興味がある。

○建築物・家具・玩具・日用品等の形の組合せの品物を興味をもつてみる。

○身の周りにあるおもちゃの品物の好み感じがわかる。

○調和のとれた形がわかる。

○物の大きさや、質の良否がわかる。

○紙袋のよし色の組合せや組合せがわかる。

○私の組の具体的指導目標  
以上、絵画における具体的指導目標を一括説定してみたのであります。

おもども一般的なものであつて、実際保育においては、更に幼児の実態・家庭の状況・  
或は地域社会の実態等に基づいて、真正現実  
ナリド、私の組(1年保育)の具体的指導

### (第二表) 絵を描かない子

男 女 別 名	男 女 別 名	久園前クリヨン使用	兄弟内の位置	描画に対する親兄弟の評価	智能指數	性行
K	K	使っていない	末子	時々みてあげる	129	いつまでも母親から離れず道具の処理も一人で出来ず遊びに参加せず、任さんやりしている。全々遊びに住み、隣りの子K以外全く友達をもたず、無口で非常に内気。隣りのKに傍を離れず、遊びの仲間に入れない。
M	M	使っていない	末子	時々みてあげる	128	兄弟姉妹が多く、落着きがない。一応遊びの仲間に入つたが、すぐ女の子をかまつたり、たたいたりする。
T	T	使っていない	人中の番目	時々みてあげる	124	家にいる時は近所の小さい子を可愛がり面倒をよくみそつても参加せず、友人の遊びを黙つてみている。
T	T	使っていた	末子	時々みてあげる	115	昨年中退したことがある。大勢の前の前で何かするのやおもてに嫌い、おべんとうやお入国以来一言も口をきかずいつも部屋の隅に立つて指をしゃぶったり、エプロンをかじっている。
A	A	使っていた	末子	時々みてあげる	?	

(第三表) 画材調査

月別	鉛画		塗装																	
	色	色と線	ガラス	家の花瓶	旗の時	男服	木空	地太海	女草	電雲	雨	飛汽船	メシ	島	砂	島	犬	自走車	屋	
1月																				
4月	男	3	6	2	1	1	1	2	5	2	1	4	1	1	1	1	7	4	1	
	女	1	3	0					4	20	1	5		2	7	10	2	8	1	1
5月	男	0	2	1				3	8	4	1	4	2	5	2	4	1	2	3	1
	女	0	1	0					6	15		1		11	7	8	14		2	1
6月	男	1	0						1	2		1		3	4	1	1	2	1	1
	女	0	1	0										1	1	3	4	1	1	1
7月	男																			1
	女																			1
計合計		1	2	8	5	52	62	2	10	1	13	1	10	64	57	2	51	2	6	4
		3	1	7	6	15	15	11	2	2	3	11	13	11	13	3	11	1	3	1



目標をたてぬ為に、幼稚・家庭・地域社会・小学校入学者の実態を調査してみました。

(1) 幼児の実態調査

先ず入園当初の状況について

(a) 入園前のクレヨンの使用調査(父兄を通じて調査)

(b) 入園当初の幼児の観察記録(教師)

を行ふおとした。(第1表参照)

その結果(ア)によれば四十六名中十二名が入園前に於て全々クレヨンを使つてゐなしことが解りました。これを百分率におしでみますと28%に当ります。

(b) については、四月一杯絵を描きながらなかつた者は、男児三名女児二名計五名でした。更にいの五名については、その原因を極めぬ為に第一表(c)のよるな事項について調査を行つました。これをみますのに、五人の共通してくる点は、されど社会性にむしむしといふことです。即ち、男児2・26の11名は遊びに参加する人が出来やすくなるやうに唯立てみておらず、これは一處仲間に加わるのですが非常に粗暴ですぐ女の子をかまつたり友人をたづたりします。又、女児Tは家庭にあつては非常に小さい子の面倒

をよくみて遊ばせるのだそうですが、幼稚園ではよくからぬで遊びに参加せずばんやりみじめます。Aは昨年姉の一人で入園したのですがねぐらといやお八つが一人で食べられず姉にいやがられて中途退園してしまつた子

です。Aは年姉の一人で入園したのがねぐらといやお八つが一人で食べられず姉にいやがられて中途退園してしまつた子です。Aを除いて(総合せや積木等はよく出来ますが金々口を開けられてしませんので指數を出

(第四表) 色 彩 調 査 (その一)

色名 (男・女別)	赤	橙	黄	黄緑	綠	青	藍	紫	黒	茶
4 男	13		8	2	7	13	5	7	12	11
	21	14	15	13	15	11	9	12	18	13
5 男	15	3	6	5	6	12	5	6	18	12
	20	14	14	12	11	14	7	10	22	12
6 男	13	5	3	7	6	13	4	5	13	9
	21	15	16	13	17	18	10	13	20	17
7 男	14	6	5	6	4	14	9	5	13	13
	22	15	13	13	15	15	9	6	17	17
計 男	55	14	22	20	23	52	23	23	56	45
計 女	84	58	53	51	58	58	35	41	77	59
合計	139	72	80	71	81	110	53	64	133	104

## (その二)

次の幼児の絵の表現について

(ア) 発達段階(第三表参照)

(イ) 表現内容(同)

(ウ) 色彩(第四表参照)

○三(1)について更に調査を行いました。

その結果(ア)について、絵画時代の者が男児は九名、女児は四名ありました。更に

の絵画時代の幼児を分類してみますと、線のみのなく描きは、男児三名、女児一名。画面の塗りつぶし描きが男児六名、女児三名、意味はわからないが輪廓の中にきれいに色を塗つて描いた所が男児に二名あります。

(オ) については三図の通り、乗り物・家庭・人物等に興味がみられましたが、人物は殆ど描かれていませんでした。

色別 月別男女別		一色	二色	三色	四色	五色	六色	七色	八色	九色	十色
4	男	2	1	5	4	3	1	2	1		1
	女		1	3	4	4	5		2	2	2
5	男	3	6	1	4	3	1	2	1	1	
	女		2		2	3	3	7	1	3	
6	男	3	3	4	5	3	1	1	1		
	女		1	1			1	6	7	3	2
7	男	1	1	7	4	3		2	2	1	
	女		1	1	3		8	7		2	1
合計	男	9	11	17	17	12	3	7	5	2	1
	女	1	5	4	9	8	22	21	5	10	5
合計		10	16	21	26	20	25	28	10	12	6

しかねて(ア) 智能指數も普通で級の平均指數よりは寧ろ上位にある位なのです。以上

から考察してみますのに、これらの子供達に一番欠けてくるものは情緒の不安定だと考えられます。即ち、家庭生活から幼稚園の

集団生活に入らなければ、幼児にとって精神的にも肉体的にも非常に大きな生活の変化であ

るが、これら五名の幼児達は他の幼児に比して色々な理由からその切り替えが遅い為に情

感的不安定な状態にあると考えられます。

しかし(ア) 智能指數も普通で級の平均指數よりは寧ろ上位にある位なのです。以上

から考察してみますのに、これらの子供達に一番欠けてくるものは情緒の不安定だと

考えられます。即ち、家庭生活から幼稚園の

集団生活に入らなければ、幼児にとって精神的

にも肉体的にも非常に大きな生活の変化であ

るが、これら五名の幼児達は他の幼児に比して色々な理由からその切り替えが遅い為に情

感的不安定な状態にあると考えられます。

(ア) 表現内容(同)

(イ) 色彩(第四表参照)

家庭の実態について、第五表に示したよ

うな事項について調査を行いました。その結

果、大体の者は家庭でも絵を描くこと、絵を

(第五表) 家庭調査(その一)

		たいてい	ときどき	ぜんぜん
1 お宅のお子様は家にいる時も絵をかきますか。	7	38	1	
2 お子様が絵を描いている時お家の人がそばでみてあげますか。	14	30	2	
3 主としてみてあげる人は誰ですか	父 1 母 31 父母 5 祖父 2 祖母 1 兄 0 姉 2 その他 0			
おお ら子 れ様 まの す絵 かに ついて 主として どのよ うに指 導して	(A) 描き始めから終りまでみてあげる 時々来てみてあげる 完成作品だけをみてあげる 全々みてあげない	3 25 16 1		
	(B) 子供の描くまゝにたゞ黙つてみている 絵本や手本をみて描かせる 間違つてゐる所や描き足りない所を批判したりなおしてあげる 描いた絵をみて説明させ不足や間違いを思い出させる 眼の前に物を置いてその通りに描かせる 傍でたゞにこにこしてて出来上った作品をいつも賞めてあげる	15 5 12 3 2 10		
	(C) 作品はお部屋に貼つてやつたり自分で貼らせる。 きちんと纏めてしまつておく 受持の先生のところにもつていく 作品は子供の勝手にさせておく	9 9 2 24		
	5 お宅ではお子様の為にどんな絵本を与えていますか	月刊雑誌「キンダーブック」46 「小学一年生」1 「小学二年生」2 「幼稚園」2 「幼年絵本」2 「幼稚園ブック」1 単行本 乗物19 動物20 童話12 童謡10 物語 8 その他 5		
6 入園前にクレヨンを使つていましたか。	使つていた 使つていない	33 13		

家庭調査(その二)

II 父母の年令		
(年令)	(父)	(母)
20代	1名	5名
30代	24	33
40代	18	8
50代	2	0
計	45 (一名死亡)	46

I 職業	
公務員	22(名)
会社員	11
商業	4
技術者	3
自由業	2
農業	3
工業	1
計	46

Ⅲ 父母の教養		
(学歴)	(父)	(母)
小学校卒	15	18
中学校卒	13	26
専門学校卒	9	2
大学卒	8	0
計	45	46

IV 園児の家庭に於ける位置	
一人子	3名
末子	20
長子	6
其の他	17
計	46

V 兄弟数	
一人兄弟	3名
二人兄弟	8
三人兄弟	19
四人兄弟	7
五人兄弟	4
六人兄弟	3
七人兄弟	1
八人兄弟	0
九人兄弟	2
計	46

描いている時には親や兄弟の干渉を受けていたこと、しかも殆どが母親であることが云われます。指導については親の大半が多少の関心をもつていてることと作品の処理については殆ど関心が払われていないこと等があげられます。又、絵本の調査については、全部が絵本を躊躇しており、種類としては、動物や乗物の絵本が圧倒的でした。

### (3) 小学校入學児童の実態調査

- 1、軍隊都市として発達した町で、軍人相手との事でした。
- 2、地域社会の特徴をあげてみますと、

の店や面会人をとめる旅館や民家等が終戦後も僅かに影をとゞめ、学校が建つに及んで文房具店・本屋等が二・三ある程度で、商店街としての景観は殆どなく、神社内のマーケットがそれといえばいえ程で町としての活気はない。

本年度三月に幼稚園を卒業して附属小学校に入学した子供の実態調査です。これは、実際に参觀したり記録したりすればよかつたのですが、それが出来なかつたので、小学校第一学年担任の先生方からの報告を纏めることにしました。その結果を要証しますと、

- 1、描くことには興味をもつていて、
- 2、所謂「幼稚園画」といわれる概念的・固定的な画が多くて、この殻から容易に脱し難くその指導に骨が折れる。
- 3、絵画経験の少ない直接入学児童に比べれば、勿論表現力も豊かであり、表現内容も豊富である。
- 4、千葉大学教育学部分校を始め小・中学校等学校が多く、学校都市としての形態をもつていて。
- 5、広大な下志津の原は戦後演習場から開拓地となり、引上げ者や元軍人等が開拓に当つていて。
- 6、総武線を境として南の低地帯は、田畠で古くからの土着民が農業に従事している。
- 7、澱粉工場や製糸工場等いくつかあるが、いずれも極く小規模のものである。

## 8、常設映画館・公園等の娯楽施設は全くない。

以上述べた様に所謂「町」としての景觀は殆どなく、美的環境に乏しく、子供の生活に与える刺戟は少い。しかし、家庭調査（その二）の職業調査の結果によれば、殆どの家庭が公務員・会社員の勤人であり、又千葉・東京への往来も容易であり、都会文化の流入はあると考えられます。又、春夏秋冬を通じて変化する広大な下志津の原を中心とする大自燃の環境に恵まれております。

### (5) 私の組の具体的指導目標

以上の実態調査に基づいて私の組の具体的指導目標を次の様に設定致しました。（第七表参照）

この具体的指導目標では、例えば「絵の具をこぼさないようにする」とか「仲良く道具を分け合つて使う」等の趣の面は除き、指導上の諸注意として別に上げることゝしませた。なお、この目標は、もとよりどの子も此の線まで到達させるというものではなく、教師として一応この程度まで指導することを目標とすればよいのではないかというものであります。

学年	期	具体的指導目標		①材料 ②表現内容 ③表現方法 ④色彩模様 ⑤鑑賞
		第一	第二	
		①・クレヨンを使って自由に気持のままを表現する。 ②・フィンガーペンで気持のままに伸び伸びと描く。 ③・黒板・地面・大きな紙に思う存分に描く。 ④・花・木・人・家・乗物・地面・空・太陽等に興味をもつて表現する。 ⑤・雨・雲・夕焼・虹等気象に興味をもつて表現する。 ⑥・画面にいくつかの対象を表現する。 ⑦・色彩に好みをもつ。 ⑧・美しい形や色の物を集めて喜ぶ。 ⑨・絵本を喜んでみる。	①・ボスター・カラーを使って自由に伸び伸びと描く。 ②・月・星等天体に興味をもつて表現する。 ③・昆虫・獣・鳥等動物に興味をもつて表現する。 ④・果物や野菜等に興味をもつて表現する。 ⑤・混色に興味をもつ。 ⑥・色々な形や色の物を整理したり並べたりすることに興味をもつ。 ⑦・花を飾つたり、作品を貼つたりして、美しい環境を作ることに興味をもつ。 ⑧・他人の作品に关心をもつ。	

### 第三学期

- ①・色々な材料を使って自由に表現する。
- ②・社会の出来事に興味をもつて表現する。

- ③・人物に簡単な表情をつけることを工夫する。
- ・時間の推移を表現することを工夫する。

- ・立体感・遠近感を工夫して表現する。
- ・グループで協力して楽しく描く。

- ④・適当に色々な色を使って表現する。
- ⑤・作品に対して好き嫌いがわかる。

上述の実態調査でも明らかのようにその発達段階は正に十人十色で、此に個人指導の重

要性があるのです。具体的指導目標に基づきながら個々を指導し、個々を指導しながら、全体をみつめるというように指導していくことが望しいと考えます。

以上、絵画の具体的指導目標の設定について述べて参りましたがこれに基づく一年間の指導を通して具体的指導目標に対する検討がなされなければならないと思いますが、その評価については後の研究に譲りたいと考えます。

(千葉大学教育学部附属幼稚園教諭)

### 予告

### 教育実際指導研究会のおしらせ

今年も左記要項によつて、教育実際指導研究会を開催いたしますから皆様多数御出席下さいますようお待ちいたします。なおくわしいことは次号でお知らせいたします。

期日 昭和二十八年六月、四、五、六の三日間  
主題 『基礎能力の伸長と教材教具』の主題の下に、実地指導、研究発表、研究懇談会講演など。

昭和二十八年五月

お茶の水女子大学文教育学部  
附属幼稚園